

2022年7月1日

夢洲における国際医療のあり方（案）

～国家戦略特区「スーパーシティ」構想を活用した万博レガシーの考え方～

2025大阪関西万博大阪パビリオン総合プロデューサー

内閣府健康医療戦略本部健康医療戦略参与

大阪大学大学院医学系研究科臨床遺伝子治療学

森下竜一

2025大阪関西万博では、大阪府市で地元パビリオンの建設が決定し、REBORNのテーマのもとに現在民間からの募集を集め、健康医療を中心とした2050年のミライのオオサカを展示すべく検討が進んでいる。そのメインの企画としては、10歳若返りを目指すアンチエイジングライドと2050年のミライの医療を展示するブースである。これらは、国内のみならず、海外での健康医療に関するニーズを見据え、300万人以上の入館者を集めるものとされている。また、万博開催の夢洲地区は、スーパーシティに選定され、大胆な規制改革も可能となっている。2029年には、MGM・オリックスによるIRの開業も予定され、国際的に夢洲地区の認知度が大きく高まることが想定される。このような状況のもとで、夢洲における国際医療は、大阪に来るインバウンド客、特にIRに宿泊するインバウンド客をリピート客として取り込めるような内容であることが望ましく、既に2024年から展開される本格的な再生医療を展開する中之島国際医療拠点と連携しつつ、差別化のできる内容であることが望ましい。私は、大阪パビリオンのレガシーとして、大阪館の設備を活用し、下記のような特徴をもつ民間医療機関を誘致、あるいは設置することを提案したい。

REBORN国際クリニック（仮称）

- (1) 万博のレガシーの継承施設としての国際医療拠点（できれば、アンチエイジングライドの運用も同時に行い、大阪パビリオン全体をレガシーとして継承する拠点）：2050年のミライの医療展示ゾーンでは、全自動細胞培養装置や最先端の医療機器の展示などが予定されており、大阪パビリオンの建物及び展示物であるこれらの機器を活用することで採算性を高める。運営母体は、既に下記に記載する想定される領域での実績がある民間医療機関が望ましい。アンチエイジングライド・ホテルの運営は、医療機関と連携するが、別会社での運用を想定。

- (2) 医療サービスの対象は主に外国人患者（大阪へのインバウンド、特にIRへのリピート宿泊者、ただし、国内富裕層及び在日外国人も自由診療下で受け入れ可能）：患者受入れコーディネート会社も、積極的に活用する。支払いは、未収金対策として前払いとする。
- (3) 自由診療（再生医療、遺伝子治療、細胞治療などであるが、再生医療安全確保法などの国内法の許可を受けたものに限る。他に未承認薬・未承認医療機器の使用も可能。ただし、特区内に認定委員会を設置し、委員会許可を得た先端医療・患者申し出療養・自由診療を実施する）：病床は19床以下とし、滞在はIRもしくは施設内ホテルを活用。想定される領域としては、脂肪由来幹細胞などを用いた運動器（変形性関節症、慢性疼痛など）、皮膚（顔・毛髪・美容医療を含む）、脳神経領域（脳梗塞後遺症、脊髄損傷など）、末梢血管疾患、がんなどであり、中之島の国際医療拠点とは異なる疾患領域および病状を中心として、IR観光客のニーズに対応する。
- (4) 外国人医師・看護師も医療に参加（規制改革による実現）：国内外から気鋭の医師を招聘し、顔の見える医療を提供。国内外大学の教授の診察も可能にするように、ダブルアポイントメントとオンライン診療を活用。診察や施術にあわせて、スポットで国内外から著名な医師を呼ぶことも可能とする。海外からの留学生の研修のために、国内外の大学の医学部付属病院あるいは連携病院とすることも考慮）
- (5) 府内の大学病院等の先端医療機関へつなぐゲートウェイ機能に関しては、中之島の国際医療拠点におき、連携することを基本とする。